平成30年度　学校評価総括表　　伊丹市立稲野小学校

教育目標	人間尊重を基盤として　豊かな心と健康な体をもち　主体性・連帯性のある子どもを育てる　　ーいきいき なかよく のびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー
重点目標	・主体的に取り組むために「ねらい」の提示、「ふりかえり」活動を充実させていく。 ・思考が深まる場面で意図的にグループ活動を取り入れていく。 ・一人ひとりの疑問を課題設定に取り入れるような授業づくりをすすめる。 ・ノート指導について学年、学校として共通理解を図ったうえで取組を充実させていく。 ・新しい教科「道徳」において、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。 ・あいさつ・トイレのスリッパ揃え・下足箱のくつ揃えに取り組む。 ・仲間づくりや相談しやすい関係づくり、関係機関との連携を図っていく。 ・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。 ・ICT機器の効果的な活用を図る。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ・個々の教師の資質を向上させる。	・朝学習（読書・視写・漢字・計算・スピーチ）の時間を確保する。 ・反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする ・継続的に本読みに取り組ませ、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。 ・本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 ・どのように振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。	・朝学習の時間に基礎基本の 学習を進めることができる。 ・反復練習により、既習内容を 確実に身につける。 ・国語の本読みを毎日続け、つまらずに読むことができるようになる。 ・わからないことを自分から質問できるようになる。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質 問しやすい」の項目で、肯定的評価が70%以上になる。 ・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。	A	・曜日によって行う朝学習の内容を年度始めに提案し全校で共通理解して取り組んできた。 ・漢字、計算など、基礎的な内容は、反復練習を定期的に行い、小テスト等も行っていることもあり、少しずつ成果をあげている。 ・本読みは宿題等で積極的に取り組んでいる。また、学習したことをいかしながらの本読みもできている。 ・研究授業を通してねらいをもって授業を構成することを意識した授業作りができた。 ・振り返りの仕方を紹介し、研究授業でも行ったが、とらえ方がまちまちだった。 ・「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で肯定評価が70%を超えていた。 ・校内研修の事前授業を公開し全職員に広めることで互いに見合う機会ができた。 ・夏期研修会を実施したり、自主研修としてパワーアップ研修を実施して互いの知識を伝え合い資質を向上させた。 ・ほぼ年10回授業を見ることができた。	・教師が意識し日々実施し、積み重ねを大切にしていく。 ・ねらいの提示の仕方とまとめにつながるねらいの示し方など研修する。 ・ふりかえりの仕方、目的など学校全体で研修し意識統一していく。 ・研究授業に関わる授業以外でも公開していく ・来年度も職員のニーズをうかがいながら、夏期研修、パワーアップ研修を実施していく。	・社会に出てからどれだけ相手の話を聞き取る力があるのかが大切になってくる。まずは「聞く力」をしっかりと身につけさせて欲しい。また、文章を読み取るも身に付けさせて欲しい。 ・学校の指導はもちろん、家庭の協力も大切である。 ・スマホ等が普及する中で、手軽に調べることができる。しかし、書くことによって、自分のものになる。「書く」ことを習慣づけて欲しい。 ・若い先生が多くなる中で、若手とベテランがうまく調和し、子どもたちに力をつけていって欲しい。
	思考力・判断力・表現力の育成	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。 ・「話す力」を向上させるための話し合いの形態を身につけさせる。 ・「聞く力」を向上させる。 ・「書く力」を向上させる。 ・「思考方法」をより多く身につけさせる方法を研究する。 ・児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む態度を育てる。	・教材の本文を大切にして読ませる。 ・ペア、グループ学習の場を設定する。 ・スピーチの活動に取り組む。 ・教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。 ・聞いた後に質問をして、聞いていた内容を確認する。 ・自分の考え、友だちの意見を聞いて、変化したことを発表させる。 ・自分の考えを持たせ、それを文に表す学習に取り組む。 ・学習でわかったことや振り返りを文に表す。 ・授業の中で、比較・類推など思考する場面を増やす。 ・学習課題を工夫する。 ・子どもを引きつける魅力的な課題設定を行う。 ・自分たちの課題が生まれる課題設定を行う。 ・習得した知識・技能を使って発展した問題に取り組む課題設定を行う。	・本文を根拠として読み取ることができる。 ・友だちの考えと比較しながら、自分の考えを深めることができる。 ・課題に対して自分の力や友だちと協力して解決しようとする姿が見られる。 ・月に一度は、クラス全員の前でスピーチをする。 ・スピーチの到達目標を参考に活用していく。 ・友だちの話の内容をしっかり聞き、理解することができる。 ・友だちの意見と自分の意見を比べることができる。 ・自分の考えを持ち、文に表すことができる。 ・学習でわかったことや振り返りを文に表すことができる。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表できる。 ・課題に対して自分なりの考えを持つことができる。 ・「～したい。」という主体的な態度で課題に向かうことができる。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90%になる。また、保護者からの肯定的評価が90%になる。	B	・重要な部分は何回も読んだり、本文から根拠を見つけ出したりする活動なども行った。 ・ペア、グループ学習を意識し、友だちの考えと比較しながら、自分の考えを深める学習を行った。 ・スピーチの題、方法などを提案し、実施した。また独自に実施した題を集め、全職員に周知した。 ・友だちの話の内容をしっかり聞き、友だちの意見と自分の意見と比べることを意識させ授業を実施した。話したいという欲求は強いが、聞くときには何気なく聞いてしまう児童もみうけられる。 ・自分の考えや感想、振り返り、まとめなど授業の中で書く活動を取り入れて学習をかさね、書くことに慣れてきている。 ・授業の中で比較・類推する場面をつくり学習をおこなった。 ・発表においては主張・根拠・理由をもって話すことができるように取り組んだ。 ・子どもたちが意欲的課題取り組むことができるような課題設定を行った。 ・習得した知識、技能を使って、問題を解決できるような設定をした。 ・「～したい。」という主体的な態度で授業にむかう子どもが増えた。 ・自分の考え、根拠、理由を意識し、発表することができる児童が増えた。 ・児童、保護者とも「授業はわかりやすい」の項目は90%を超えている。	・ペア・グループの効果的な活用のしかたを考える。 ・各クラスで時間を確保し、1年を通した継続した取り組みが行っていく。 ・スピーチの題を学校全体で共有する。 ・話すことが苦手な子どもへは、スモールステップで継続的に取り組む。 ・しっかり聞き、自分の意見と友だちの意見をくらべられるような場面設定を継続的に行い聞く力をつけていく。 ・今後も継続し、自分の考え、感想、振り返り、まとめなどを書く場面の設定を継続的して行う。 ・書いたものをクラス全体に紹介し書き方を知り、書く内容についても深められるようにする。 ・授業の中で、ペア・グループ活動における思考が深まる取り入れ方を研究する。 ・引き続き自分の考えをもって、根拠や理由をもって発表できるyことを発達段階に合わせ取り組んでいく。 ・課題を工夫し、子どもたちにめあてをもたせ、それがまとめにつながるような授業の継続実施 ・「～したい。」という主体的に取り組めるよう、課題を設定したり、一人一人の気持ち、様子を大切にする。 ・今後も自分の考えに理由、根拠をもって発表することを意識させていく。	
	読書活動の推進	・読書活動を充実させ、語彙力・読解力・思考力の獲得を図る。	・「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 ・読み聞かせの時間を増やす。 ・週2回15分の「朝読書」を継続する。 ・週末に読書の宿題を出す。 ・子どもたちのニーズを把握した上で、図書館の本を充実させていく。	・児童のアンケートの「読書を するのが楽しい」の項目で、肯定的評価が85%以上 になる。 ・1週間に少なくても2冊は本を読む。	B	・児童アンケートでは、肯定的評価が83%ということで、後もう少しで達成できるところであった。	・引き続き児童が読書に興味を持ち、効果的に読書の習慣が着いていくように、環境整備・機会の充実を図りたい。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育・情操教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・実生活に合った道徳、人権教 育の授業に取り組む。 ・教科書（あかつき）を中心にして、「こころはばたく」などの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・『月目標』を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・冒険教育を有効に使う。	・他人に対しての「思いやり」と 自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活をおくること ができる。 ・学期に1回は冒険教育を使い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる授業をする。	B	・どの学年も教科書を中心に、心シリーズも　十分に授業で活用することができた。 ・おおむね「思いやり」をもって生活することができる児童が多くいる一方で、「あきらめない気持ち」は場面によっては難しい児童がいた。 ・学級で簡単なゲームをしたり、エンカウンターを利用してみんなで達成することや協力することの大切さを学ぶ機会は設けているが、”学期に一回は冒険教育施設を使う”という目標は、どの学級も達成できなかった。	・”学期に一回は冒険教育施設を使う”という目標が達成できない理由として、「クラスで使用するには施設に対して人数が多く、担任一人で全児童の安全を確保するのは困難であり、不安感もある」ということが挙げられた。施設を使わなくても行える冒険教育もあるので、”施設”に縛られず、”学期に一回は冒険教育を行う”という目標であれば、どのクラスも達成できるのではないだろうか。	・いじめ、虐待については家庭、そして関係機関とも連携していくことが大切。 ・健やかな心を育てていくには家庭の力が大きい。家庭と学校が連携していくことが大切。 ・家庭において何でも話ができる関係づくりを築いていくことも必要である。
		・豊かな心を育む情操教育の推進	・音楽会・図工展の活性化 ・低学年への音楽・図工の専科指導 ・「今月の歌」の取り組み ・作品等の廊下掲示 ・ICT機器を利用した、情操教育の充実	・音楽会や図工展を通し、個性や多様性を認め合うことができる。 ・素直に自己表現することによって、自分の思いを伝えることができる。　　・低学年からの系統的、継続的指導により豊かな感性を育てる。	B	・低学年の継続的な指導ができていない。　・ICT機器の利用をもっと活性化する必要がある。 ・自己表現するための系統的課題をさらに精選していく。	・低学年の指導ができるような時間の確保するため、今後も検討していく。 ・電子黒板の導入し、わかりやすい授業の工夫をしていく。 ・担任が他校の音楽会・図工展を鑑賞できるように声かけする必要がある	
	いじめへの対応 問題行動への対応	・いじめの未然防止に努める。 ・いじめの早期発見、早期対応を図る。	・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。	・「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。	B	・いじめの認知件数が、昨年度に比べて減った。これは、全教職員による左記の具体的施策が奏功した結果であると思われる。 しかし、相談に関する児童の肯定的評価が77%にとどまっている。日記や面談等の方法だけではなく、子どもとつながる何らかのツールを考えていきたい。	いじめアンケートの稲小独自バージョンとして、「こころの健康チェックシート」を提案し、活用する。	
	不登校への対応	・不登校傾向児童への早期対応を図る。	・保護者、担任、学校カウンセラーとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・夏季研修会のテーマを「不登校」として取り組む。	・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。	B	・相談室が新設されたことで、教室に入りにくい子の居場所ができた。その子たちの登校日数の上昇は大きな成果である。今後、教室への登校にどう結びつけていくのかを職員の共通理解を図りながら取り組んでいく必要がある。	・「相談室担当」を生活指導部内の互選により決定し、校務分掌に位置づける。その担当者は、以下の3点を別途提案する。 ①相談室を担当する職員のシフト表作成 ②担当職員の児童への関わり方等に関する共通理解事項 ③個別の時間割表(掲示)と対応連絡（ノート等）	
	子どもの健やかな体づくりの推進	・自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。	・体育の授業で、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「わくわく業間タイム」を充実させる。 ・スポーツバッチの取り組みを保つ。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設 定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動する ようになる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。	B	・単元に応じた「がんばりカード」を使用することにより、目標を持って活動することができた。 ・「わくわく業間タイム」や委員会企画などで外に出るきっかけ作りはできたが、出にくい児童には引き続き声かけが必要である。 ・パワーアップタイムの取り組みを年間通して行えた。	・「がんばりカード」を引き続き使用するように取り組み、内容の見直し、改善にも努める。 ・今後も定期的に実施していくと共に、教師からの声かけも大切に取り組んでいく。 ・より体力の向上につながる取り組み方を検討していく。	
開かれ信頼される学校園		・学校情報の積極的な発信	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的発信する。 ・保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 ・地域の行事にすすんで参加する。	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85%以上になる。 ・「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。	B	・週に1回以上のホームページ更新は達成できた。保護者アンケート結果については肯定的意見が87%とまだ目標を達成することができていないため、より分かりやすい工夫が必要である。 ・保護者アンケート結果は肯定的意見が87%であった。引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに素早く丁寧な対応に努めていく。 ・教師バンドやソーラン隊が夏祭りに参加するなど、地域の行事に積極的に参加した。	・今後も学校の取り組みについてより分かりやすく情報発信し、学校の取り組みについての理解を深めていく。 ・引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに、素早く丁寧な対応に努めていく。 ・図書や花壇整備、土曜学習などPTAや地域との連携を今後も大切にしていきたい。 ・働き方改革にも取り組みつつも、地域と連携及び学校運営協議会を推進することで信頼される学校づくりに取り組んでいきたい。	・今後とも地域と学校が連携して取り組んでいくことが大切である。

学校関係者評価総括

概ねしっかりと取り組んでいただいている。達成できていない項目についてはできるだけ具体的な手立てを示し、目標達成に向けて取り組みを進めていって欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点
・つけたい力を明確にし、「ねらい」の提示、「ふりかえり」活動を工夫していく。
・思考を深めるために、効果的にペア・グループ活動を取り入れていく。
・「～したい」と一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。
・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。
・自・他の意見をくらべられるような場面設定を継続的に行い「聞く力」をつけていく。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った